

事業所における自己評価結果(公表)

公表:2025年5月

事業所名 ちあふるスクール枚方

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員分の個別ブースを設けており、スペースを確保できています。	指導員が一カ所に集まると死角になる(入口付近)スペースもあるが、指導員がスペースに分散して見守り適宜確認できるようにしています。
	2 職員の配置数は適切である	○		支援時間に送迎の出入りや保護者様の対応が重なることもあるため、送迎の段取りや取り組み内容を工夫して対応しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動スペースやビル内に大きな段差はありません。フロア内はマットを敷いており、マット分、段差になっている場所があります。個別スペースで活動することにより、周囲の目や、他への注意の転換を最小限にし、取り組みへの集中できる環境をつくっています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動スペースの子どもが触る場所は毎日拭き掃除などをして清潔にしています。最低でも一日一回の支援室内消毒を実施しています。転倒した際でも怪我を防げるようにフロア全体にクッションマットを敷いています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		情報共有の時間を設けて、その日に勤務する職員全員で支援内容や改善事項について話し合っています。支援時間でも、何かあれば都度共有しています。パートタイムの方は、勤務時間の都合上により共有事項を確認するだけのこともあります。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施して、改善事項があれば共有しています。保護者様からの連絡等があれば職員全体で共有し、対応方法等を話し合っています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		前回までの結果をHPで公開しており、今回の結果も集計後に公開する予定です。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて実施していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		運転の研修や強度行動障害に関する研修やその他各種研修を受ける機会があります。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者様からのアセスメントシートや、指導員からの共有情報、お子さんの様子から、支援計画を立てています。保護者様との面談の内容や記録をもとに計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		共通の課題(タイピングなど)を通じて、どの程度のレベルなのか理解することができるようになっています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員で話し合って活動内容を決めています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方を決めています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの様子によって提案内容を変えながら支援しています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方を決めています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		集団で活動できるスペースに限りがあり、集団活動を固定プログラムに組み込むことがあまりできていません。そのため、利用人数や活動時間を考慮して、状況に応じて支援しています。コミュニケーションが苦手なお子さんに関しては、個別活動ではなく、集団活動でゲームやレクリエーションを実施し良好なコミュニケーションが築けるよう計画を立案しています。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に職員同士で情報共有の時間を設け、内容や役割について確認しています。共有時間を設け、その日の担当を割り振り、前回の活動の申し送りであったり、注意することを共有しています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の共有時に、前日の支援の振り返りについて共有しています。支援後に送迎がある兼ね合いもあり、当日に固定して共有時間は設けられていませんが、状況に応じて職員同士で個人的共有（困ったこと、お子さん同士のトラブル等）をし、翌日の共有の際に忘れず伝えるようにしています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援の記録を残すことはしているが、記録の細かな内容は職員ごとに任せています。日々の記録は専用ツールで共有し記録を残しており、随時確認できるようにしています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		指導員が各自記入した記録をまとめる方法でのモニタリングを定期的の実施しています。更新月の前に支援目標ごとの達成度や今後の課題について確認しています。	
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と一緒に、直接支援している指導員が、同席して日々の様子を共有しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		必要に応じて参加の段取りをいたします。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		緊急性の高い共有事項は、すぐに保護者様へ連絡しています。 事業所での取り組みや、その日の様子は送迎時やお迎えの際に口頭で伝え、詳細は活動記録を通じて伝えています。 利用児童のご自宅の様子、医師からの診断書等も保護者様から預かったものは事業所内で共有しています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		必要に応じて保護者様同士が連携をとる機会のある支援を行っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々の記録を公開したり、周知したい内容に関してはHPやメール、専用ツールでお知らせしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の載った書類を持ち出さないようにしています。 支援活動時に、児童が制作したデータはUSBメモリで個人の保存データを管理し、支援終了後に数の確認を行っています。	送迎時は職員の携帯電話で直接保護者様に連絡しており、社用携帯があるとより個人情報の管理ができるため今後の改善課題としています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童とは非言語的コミュニケーション(ひらがな表、感情スケール表、ホワイトボード等)を使用しコミュニケーションを取ることがあります。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		招待はしていないが、地域のイベントと一緒に参加することがあります。		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		研修のための資料を策定して職員に知らせています。 緊急時対応、感染症対応等のマニュアルを作成し、職員間で話し合い、確認する機会を設けています。	保護者様へは利用契約時の説明のみになっており、内容更新の際に改めて説明の場を設けるなどの対応を今後の改善課題としています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練や非常時の対応に関する研修を定期的に行っています。 非常災害の発生に備え、実際に避難経路を移動しての確認や、発生時取るべき行動、対応方法を説明し、確認しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面談や利用契約などの際に、保護者様に確認し対応しています。 服薬については児童の備考欄で共有し、副作用等についての注意点を確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談や利用契約などの際に、保護者様に確認し対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった際は報告書を作成し、事業所全体で共有し再発予防に努めています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束する場合がありますと支援計画に記載し、保護者様の了承を得ています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 2025年5月

事業所名 ちあふるスクール枚方

保護者等数(児童数) 6 回収数 5 割合 83 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	5				1人1台PCがあるのはすばらしいと思います。	とても嬉しいお言葉をいただきありがとうございます。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	3			2		適切に人員配置をしております。現状は、人員を増やして加配での配置となっております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5				ホワイトボードでその日にやる流れをしめされているのがわかりやすいと思います。	とても嬉しいお言葉をいただきありがとうございます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5					
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	5					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			1		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	5					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1				4 利用して7ヶ月ぐらいですが、特にそのような機会はないように思います。	現在利用されている全ての児童が地域の幼稚園・保育園に通っておりそれぞれの園で交流をされているため、現状は改めての交流の場は設けておりません。
保護者 への 説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	5					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	5					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている	2			1	2 利用して7ヶ月ぐらいですが、特にそのような機会はないように思います。	個別の相談のなかで助言等を行っていますが、現状は家族支援プログラムとしては取り組んでいません。今後の課題として検討いたします。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	5					利用当日の活動記録を、翌日以降に更新しております。当日に記録の共有ができず申し訳ございません。当日は支援と送迎を優先しているため、どんな様子だったのか状況に応じて送迎時などに口頭でお伝えいたします。口頭報告のあと、改めて詳細内容を翌日以降に確認していただけるようにいたします。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	3	1		1		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	1				4 利用して7ヶ月ぐらいですが、特にそのような機会はないように思います。	就労されている保護者様が多く、活動時間でご案内が難しい事情がありますが、今後の検討課題としております。具体的には、課外活動を行う際や地域イベントに参加する際に、保護者様にも参加していただき交流の場となるような場の開催を検討しております。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	3	2			共働きのため送迎を利用させてもらいたい。	送迎可能なエリアを設けて活動時間を確保しているため、お住まいの場所により対応できずご不便をおかけして申し訳ございません。長期休みの利用時など、調整できる範囲でご対応いたします。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	5					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	5					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	5					
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	4			1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	3			2		避難訓練や非常時の対応に関する研修を定期的に行っています。非常災害の発生に備え、実際に避難経路を移動しての確認や、発生時取るべき行動や対応方法を説明し、確認しています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	5					
	23	事業所の支援に満足している	5					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちあふるスクール枚方		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		2025年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミング的思考を養う取り組みへの要望が多く、その期待に応える活動内容の提案ができています。 PCやタブレットを活用して、プログラミング学習に取り組みプログラミング的思考を養う課題や取り組み内容の調整ができています。	個別ブースを一人ずつ設けることで、集中して取り組める環境をつくっている。	通所後にお子様の興味の持てそうなことや好きなことを深く知り、活動内容へ反映できるようにします。
2	早くからIT機器にふれることで就労に向けた支援につながることができています。 一人一台のPCを使い、ITにふれる環境で支援ができています。 それぞれのお子様の特性によって、提案内容を変えながら支援ができています。	季節の行事やイベント等を開催して、交流の機会を広げたり取り組み意欲向上につなげている。 交流を通してコミュニケーション力の向上につなげている。	新しいツール等を積極的に取り入れたり、先に指導員が試して支援に活用できるものを探します。
3	支援開始前や支援後に、事業所内で共有を行ってより良い支援につなげている。 毎日共有の時間を設けていて、児童発達支援管理責任者を中心に全指導員で振り返りや事前共有を行っている。	スケジュールボードを活用して、先の見通しをたてて行動できるように支援している。	情報共有するだけでなく、共有した情報を支援につなげるにはどうしたらいいか各個人が探究します。 各個人から事業所全体への共有還元も行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流の機会の場の提供ができていない。	直接支援に対する要望のほうが多いため、支援内容の充実を優先していました。そのため保護者様が参加する交流の場のご提案ができていませんでした。	保護者様の要望を確認して、交流の機会を望む方に対して保護者様同士の交流の場を提供できるようにします。
2	地域の交流の場に、あまり参加できていない。	平日は利用時間等で調整が難しい部分があり土日祝で日時調整をしているため、月一回程度の参加になっています。	今後、利用者様の意見を聞くなど調整しながら参加の頻度を増やしていけるようにいたします。
3	障がいのない子どもと一緒に活動する機会が少ない。	地域の交流の場に参加するとともに、どのような場に参加して調整するのか決める必要があります。	今後、機会を増やしていけるようにいたします。

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2025年5月

事業所名 ちあふるスクール枚方

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員分の個別ブースを設けており、スペースを確保できています。	指導員が一カ所に集まると死角になる(入口付近)スペースもあるが、指導員がスペースに分散して見守り適宜確認できるようにしています。
	2	職員の配置数は適切である	○		支援時間に送迎の出入りや保護者様の対応が重なることもあるため、送迎の段取りや取り組み内容を工夫して対応しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		情報共有の時間を設けて、その日に勤務する職員全員で支援内容や改善事項について話し合っています。支援時間でも、何かあれば適宜共有しながら進めています。パートタイムの方は、勤務時間の都合上により共有事項を確認するだけのこともあります。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施して、改善事項があれば共有しています。保護者様からの連絡等があれば職員全体で共有し、対応方法等を話し合っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		前回までの結果をHPで公開しており、今回の結果も集計後に公開する予定です。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて実施していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		運転の研修や強度行動障害に関する研修、その他各種研修を受ける機会があります。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者様からのアセスメントシートや、指導員からの共有情報、お子さんの様子から、支援計画を立てています。保護者様との面談の内容や記録をもとに計画を作成しています。	
10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		共通の課題(タイピングなど)を通じて、どの程度のレベルなのか理解することができるようにしています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員で話し合っ活動内容を決めています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方を決めています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの様子によって提案内容を変えながら支援しています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方を決めています。利用児童主体で活動内容の選択決定ができるような提案をしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		普段の放課後利用時と長期休暇では活動プログラムを少し変更したり、職員同士で話し合っプログラムを考えています。普段の取り組み内容に、期間限定でイベント(タイピング記録会等)を加えて支援しています。活動時間に合わせ、休憩時間を設けたり、取り組み内容を変更したりして支援しています。その他に、月一回程のペースで外出支援を行っています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団で活動できるスペースに限りがあり、集団活動を固定プログラムに組み込むことがあまりできていません。そのため、利用人数や活動時間を考慮して、状況に応じて支援しています。コミュニケーションが苦手なお子さんに関しては、個別活動ではなく、集団活動でゲームやレクリエーションを実施し良好なコミュニケーションが築けるよう計画を立案しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に職員同士で情報共有の時間を設け、内容や役割について確認しています。共有時間を設け、その日の担当を割り振り、前回の活動の申し送りであったり、注意することを共有しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の共有時に、前日の支援の振り返りについて共有しています。支援後に送迎がある兼ね合いもあり、当日に固定して共有時間は設けられていませんが、状況に応じて職員同士で個人的共有(困ったこと、お子さん同士のトラブル等)をし、翌日の共有の際に忘れず伝えるようにしています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援の記録を残すことはしているが、記録の細かな内容は職員ごとに任せています。日々の記録は専用ツールで共有し記録を残しており、随時確認できるようにしています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		指導員が各自記入した記録をまとめる方法でのモニタリングを定期的を実施しています。更新月の前に支援目標ごとの達成度や今後の課題について確認しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と一緒に、直接支援している指導員が、同席して日々の様子を共有しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時に関することや、予定に関することはその都度学校に連絡して確認しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現状は対象の児童が通所しておりません。今後、通所の際は情報を提供させていただきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		必要に応じて参加の段取りをいたします。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		緊急性の高い共有事項は、すぐに保護者様へ連絡しています。事業所での取り組みや、その日の様子は送迎時やお迎えの際に口頭で伝え、詳細は活動記録を通じて伝えていきます。利用児童のご自宅での様子、医師からの診断書等も保護者様から預かったものは事業所内で共有しています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談があった際に、面談の場を設けたり電話対応で支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		必要に応じて保護者様同士が連携をとる機会のある支援を行っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があればすぐに職員間で共有し、対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々の記録を公開したり、周知したい内容に関してはHPやメール、専用ツールでお知らせしています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の載った書類を持ち出さないようにしています。支援活動時に、児童が制作したデータはUSBメモリで個人の保存データを管理し、支援終了後に数の確認を行っています。	送迎時は職員の携帯電話で直接保護者様に連絡しており、社用携帯があるとより個人情報の管理ができるため今後の改善課題としています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童とは非言語的コミュニケーション(ひらがな表、感情スケール表、ホワイトボード等)を使用しコミュニケーションを取ることがあります。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		招待はしていないが、地域のイベントと一緒に参加することがあります。		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		研修のための資料を策定して職員に知らせています。緊急時対応、感染症対応等のマニュアルを作成し、職員間で話し合い、確認する機会を設けています。	保護者様へは利用契約時の説明のみになっており、内容更新の際に改めて説明の場を設けるなどの対応を今後の改善課題としています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練や非常時の対応に関する研修を定期的に行っています。非常災害の発生に備え、実際に避難経路を移動しての確認や、発生時取るべき行動、対応方法を説明し、確認しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束する場合がありますと支援計画に記載し、保護者様の了承を得ています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談や利用契約などの際に、保護者様に確認し対応しています。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった際は報告書を作成し、事業所全体で共有し再発予防に努めています。		

放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:2025年5月

事業所名 ちあふるスクール枚方 保護者等数(児童数) 43 回収数 41 割合 95 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	36	4	1		狭いように感じます。	一席ごとに仕切りがあり個別ブースとして支援しているため、区切が多く見た目は狭く感じるかもしれませんが、作業テーブルを用意して、ときには集団活動ができるスペースも確保しております。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	30	11			配置については現状みていないのでわかりません。	適切に人員配置をしております。現状は、人員を増やして加配での配置となっております。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	29	12				活動スペースやビル内に大きな段差はないようにしています。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	40	1				
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	35	6				
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	23	10			事業所内で交流会を開催する際に、従業員の子どもも参加して一緒に活動する機会を設けております。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	40			1		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	35	5	1			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	40		1			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	15	20		父母の会がないです。	課外活動を行う際や地域イベントに参加する際に、保護者様にも参加していただいで交流の場になるような機会を検討しております。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	35	5				
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	34	6	1			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	33	7	1			
	14	個人情報に十分注意しているか	38	2		1		

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	30	8	2	1		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	30	11				
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	39	2				
	18	事業所の支援に満足しているか	36	4	1		<p>・いつも楽しく通っています。1点だけ帰りの送迎をしてもらえない状況が私の負担になっています。ご検討よろしく願います。</p> <p>・3Dプリンタの作品を持ち帰ることがないのですが、していると面談でききました。どこにあるのでしょうか</p> <p>・もう少し利用したい日に利用ができたらと思う。急な予約がなかなかとれない。</p>	<p>送迎可能なエリアを設けて活動時間を確保しているため、お住まいの場所により対応できずご不便をおかけして申し訳ございません。長期休みの利用時など、調整できる範囲でご対応いたします。</p> <p>製作した作品について、お子様本人に確認し、持ち帰らない際は事業所にて保管しています。</p> <p>希望日に通所利用ができず申し訳ございません。空き枠ができた際に、その都度ご案内させていただきます。</p>

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちあふるスクール枚方		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミング的思考を養う取り組みへの要望が多く、その期待に応える活動内容の提案ができています。 PCやタブレットを活用して、プログラミング学習に取り組みプログラミング的思考を養う課題や取り組み内容の調整ができています。	個別ブースを一人ずつ設けることで、集中して取り組める環境をつくっている。	通所後にお子様の興味の持てそうなことや好きなことを深く知り、活動内容へ反映できるようにします。
2	早くからIT機器にふれることで就労に向けた支援につながることができている。 一人一台のPCを使い、ITにふれる環境で支援ができています。 それぞれのお子様の特性によって、提案内容を変えながら支援ができています。	季節の行事やイベント等を開催して、交流の機会を広げたり取り組み意欲向上につなげている。 交流を通してコミュニケーション力の向上につなげている。	新しいツール等を積極的に取り入れたり、先に指導員が試して支援に活用できるものを探します。
3	支援開始前や支援後に、事業所内で共有を行ってより良い支援につなげている。 毎日共有の時間を設けていて、児童発達支援管理責任者を中心に全指導員で振り返りや事前共有を行っている。	スケジュールボードを活用して、先の見通しをたてて行動できるように支援している。	情報共有するだけでなく、共有した情報を支援につなげるにはどうしたらいいか各個人が探究します。 各個人から事業所全体への共有還元も行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流の機会の場の提供ができていない。	直接支援に対する要望のほうが多いため、支援内容の充実を優先していました。そのため保護者様が参加する交流の場のご提案ができていませんでした。	保護者様の要望を確認して、交流の機会を望む方に対して保護者様同士の交流の場を提供できるようにします。
2	地域の交流の場に、あまり参加できていない。	平日は利用時間等で調整が難しい部分があり土日祝で日時調整をしているため、月一回程度の参加になっています。	今後、利用者様の意見を聞くなど調整しながら参加の頻度を増やしていけるようにいたします。
3	障がいのない子どもと一緒に活動する機会が少ない。	地域の交流の場に参加するのと同様に、どのような場に参加して調整するのか決める必要があります。	今後、機会を増やしていけるようにいたします。